



うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第49号

発行日：2019年3月25日
編集発行：魚津埋没林博物館
印刷：魚津印刷(株)

博覧会がやってきた!

魚津市ガイド

| | |
|------------|-----------|
| ①魚津市役所 | ⑥魚津地区管轄署 |
| ②魚津町工芸館 | ⑦魚津電報電話局 |
| ③下新川地方事務所 | ⑧魚津郵便局 |
| ④富山地方検察庁 | ⑨魚津土木出張所 |
| ⑤富山地方裁判所 | ⑩富山県工業試験場 |
| ⑪魚津支店 | ⑪魚津分室 |
| ⑫魚津労働基準監督署 | ⑫魚津市立図書館 |
| ⑬魚津公共職業安定所 | ⑬富山地方裁判所 |
| ⑭魚津民営住宅 | ⑭魚津支所 |
| ⑮魚津市庁舎 | ⑮日本電気公社 |
| | ⑯魚津出張所 |

富山博覧会場

魚津市

富山方面

富山会場は魚津会場より汽車電車にて30分

富山博

1954
4月11日 - 16日4日

会場 富山市城趾公園(附近) 富津台、魚津市海浜地帯

富山工業大博覧会々場案内

富山県 富山市、共催 魚津市参加
富山産業大博覧会

2025年大阪での国際博覧会開催決定のニュースは記憶に新しいところですが、今回表紙で紹介するのは1954年の「富山産業大博覧会」のパンフレットです。実は魚津埋没林博物館の歴史をひも解くと、その始まりは博覧会の会場だったのです。

魚津埋没林博物館の誕生と博覧会

学芸員 石須 秀知

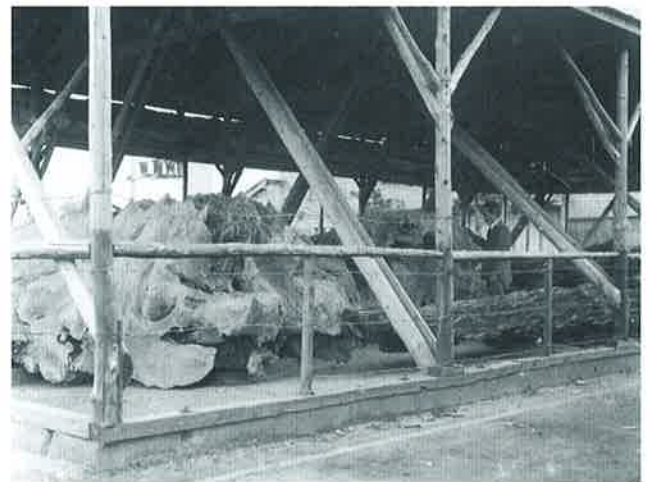
魚津埋没林は、1930年ごろに魚津港建設のため砂浜を掘り下げたところから発見されました。数千年前の魚津の海岸に巨木林があったことを物語る200株を超える樹木の根の出土は、人々を驚かせました。調査により埋没林は貴重な地学的資料であることが判明したことから、魚津港に隣接する土地が埋没林の埋まっている場所として天然記念物に指定されました。また埋没林は、蜃気楼、ホタルイカと並ぶ“三大奇観”の一つに数えられ、魚津の観光素材としての価値づけもされるようになりました。しかし、魚津港の建設現場内の埋没林は学術調査が終わると取り除かれ、魚津港が完成しました。



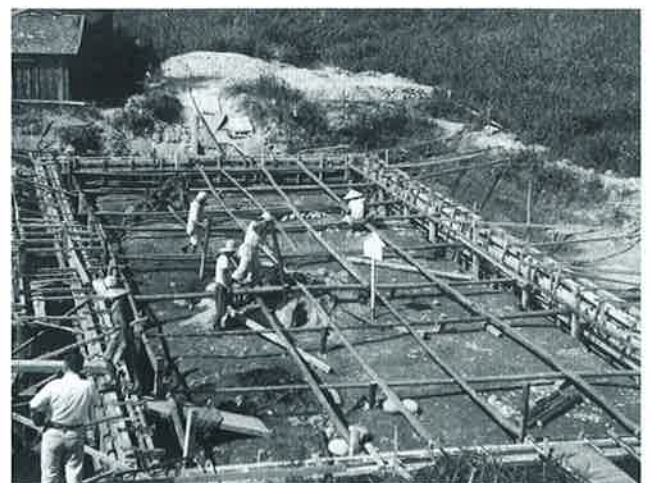
魚津港建設現場での埋没林

魚津港建設現場から掘り出された埋没林は、ごく一部が簡単な小屋で保管されているだけでした。200株以上出土した埋没林の多くは、戦時中や戦争直後に燃料の薪にされました。港の完成直後には、砂浜の波打ち際に自然に顔を出していた埋没林もあったらしいのですが、戦後はそれも見られなくなっていたようです。観光資源としても学術研究の対象と

しても、出土したその場所での実物が見学できないのは不都合です。そこで魚津市では、天然記念物指定地に隣接した土地で発掘調査を行い、さらにその場所に保存施設を建設することになりました。当時の新聞記事によれば、1952年の5月に試掘によって埋没林が密集した場所が特定され、11月には発掘地に建てる保存施設の設計概要がまとめられたようです。同年12月の魚津青年模擬市議会では、市長が、1954年までに「根を張ったままの埋没林を中心とした博物館」を整備するという発言をしています。



一部保存された港建設で出土の埋没林



埋没林の発掘場所で建設中の保存館

ちょうど同じ時期、富山県と富山市によって、富山市中心部の富山城址公園を会場とする博覧会の開催準備が進められていました。1953年3月に開かれた博覧会の全体企画委員会で、魚津市は、整備予定の埋没林保存館と水族館を博覧会の第2会場として参加させてほしいと要望し、認められました。すでに進められている計画にあとから便乗とは図々しいと思われたかもしれませんが、魚津市としては観光客を呼び込む絶好のチャンスをつかむことができたわけです。とはいえ、博覧会の開会は1954年の4月で、ほぼ1年しか時間がありません。魚津市では、恒久的な埋没林保存館と水族館のほか、博覧会用に蜃気楼館、ホテルイカ館、物産館、野外ステージ、動物舎などの整備も計画していました。現在では考えられないような突貫スケジュールですが、埋没林保存館の工事は着々と進み、1953年9月には埋没林発掘地の保存水槽が完成、翌年2月19日の新聞には建物全体の完成を伝える記事が載っています。魚津市では博覧会場以外でも、駅舎の整備や道路の改修、商店街の改装などが進められ、博覧会に向けて大きな盛り上がりを見せていたようです。



完成直後の「埋没林自然保存館」

1954年4月11日、富山産業大博覧会が開幕しました。開幕の日、魚津会場ではその年最初となる蜃気楼も見られ、1万5千人の観光客の目を楽しませたそうです。博覧会の期間中、魚津市では遊覧船の運航や曳山、神輿

行列、花火大会なども行われ、まさにお祭り騒ぎだったようです。富山産業大博覧会の開催期間は6月4日までの55日間で、魚津会場の入場者数は361,222人（水族館と埋没林館合わせ）と報じられています。

博覧会が幕を閉じた後も、埋没林保存館は引き続き公開され、観客を集めました。そして、博覧会の翌年である1955年、魚津埋没林は国の特別天然記念物に指定され、さらに埋没林の保存館は「魚津市立特別天然記念物埋没林博物館」として博物館登録されました。ここから魚津埋没林博物館の歴史が始まったのです。



富山会場(絵はがきより)



魚津会場(絵はがきより)

シリーズ

埋没林の仲間たち ④6

クロウメモドキ科



クロウメモドキ

科の名前になっているクロウメモドキは、“黒い実がなるウメに似た葉の木”という意味です。ちなみに、赤い実がなり庭木などにされるウメモドキはモチノキ科なので親戚ではなく、もちろんバラ科のウメとも関係はありません。クロウメモドキの花はとても地味で、何かの花が散ったあとのようにも見えます。クロウメモドキ科で特徴のある木としては、ケンポナシがあります。ケンポナシの果実は食べられませんが、その柄が太くふくらんで



ケンポナシの果実

甘くなり食べられます。また果実が食用になるナツメもクロウメモドキ科の仲間です。

富山県内ではクロウメモドキ科の植物は数種類が分布します。魚津市内では、山地や丘陵地帯のところどころでクロウメモドキ、ケンポナシなどの生育が見られます。

魚津埋没林では、1930年にクロウメモドキ科の木材が見つかっています。

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月1日から3月15日までの木曜日(祝日の場合開館)、
年末年始(12月29日～1月1日)
- 入館料 ・大人(高校生以上)…520円 ・小中学生…260円
- 交通 ・あいの風とやま鉄道魚津駅 } 下車1.5km (タクシー…5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } 徒歩…25分
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分
- ・魚津市民バス 埋没林博物館前下車

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049
ホームページ <https://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>
e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp

